

4. 浸水ハザードマップ

4-1 ハザードマップの見方

自分が住んでいる地域にどのような被害が想定されるかを把握しておくことで、いざという時の早めの行動に繋がります。下の項目に注目して、自分の住んでいる地域の危険性を確認し、速やかに避難できるように役立てましょう。

自分の住んでいる地域の確認

浸水想定区域内にあるか	自宅が浸水被害を受けると予想される区域内にあるか確認しましょう。	浸水想定区域図
家屋倒壊等氾濫想定区域にあるか	洪水の際に木造家屋等は倒壊する恐れがあります。	浸水想定区域図
土砂災害のおそれがないか	土砂災害警戒、特別警戒区域を確認しましょう。	6-3 土砂災害警戒区域図(拡大図)
自宅が2階以上の建物か	高い場所(2階以上)へ避難が行えるか確認しましょう。 垂直避難をする際に長期間孤立するリスクについても考慮しましょう。	1-4 浸水想定区域図について 2-2 避難行動判定フロー 3-2 避難時の心得
自宅に地下ガレージ、地下室があるか	浸水被害の危険性が高いことから注意しましょう。	2-7 地下空間の危険性

避難施設の確認

避難施設はどこか	最寄りの避難施設を確認しましょう。 なお、ハザードマップでは避難施設として「指定緊急避難場所」を表示しています。	浸水想定区域図 7-1 避難施設について
避難経路上に浸水想定区域がないか	内水浸水想定区域図を見て避難施設までの安全な経路を確認しましょう。アンダーパスは通らないようにしましょう。また、避難の途中で洪水による危険が想定される場合は、各河川の洪水浸水想定区域図を確認して浸水が想定されていない安全な方へ向かいながら、最寄りとは別の避難施設へ行くことも想定しましょう。	浸水想定区域図

各自の避難計画の作成

マイ・タイムラインで避難時の行動計画を立てましょう。	2-3 マイ・タイムライン
もしもの時に速やかな避難ができるよう備えておきましょう。	2-1 水害に備えた事前の心構え 2-2 避難行動判定フロー

避難行動

避難計画をもとに速やかに避難しましょう。	3-1 警戒レベルと災害時のとるべき行動 3-2 避難時の心得
----------------------	------------------------------------

内水、洪水それぞれの浸水深の目安として下の図を参考にしてください。

